

角田山の雪割草とカタクリ

上野 昇

今年の早春の4月の上旬の新潟県の山行（日本海に面した角田山）で撮りました。この時は、天気も良く平日でしたが多くの登山者（高齢者）で、山は賑わっていました。特にこの時期は、雪割草が咲き誇り、カタクリの群生も併せて見ることができました。



雪割草は、サクラソウ科、サクラソウ属の多年草、高山植物で日本全土の亜高山帯から高山帯に自生する。新潟県では「県の草花」に指定されています。◆雪割草の名前の由来
樹木が多く生える、やや湿った急斜面などに生息し、強い日差しが当たらない場所を好む。「雪割草（ゆきわりそう）」、名前はこの植物が早春に咲きまだ雪が残っている季節に、その雪を割るようにして地面から伸ばした茎の先に、白色の小さな花を咲かせることにちなんでつけられた。また雪割草は、同じ仲間の植物のミスミソウやスハマソウの総称としても使われているとの事です。雪割草の花言葉～
www.kami-chan.net から抜粋



◆カタクリの名前の由来

一方、カタクリは古く「かたかご（籠を傾けたように咲くことなど語源には諸説あり）」と呼ばれ、それが転じて「かたくり」になったともいわれます。英語では和名と同じ「katakuri」や「Dog tooth violet（犬歯のスミレ）」と呼ばれます。

このような時期に、ふたつの花を鑑賞できたことは、ラッキーでした。私はあまり花に興味はありませんでしたが、これを機会に、また花咲く山に行きたくくなりました。

花ごよみ No.72

タカネヒランジ

渡辺 綺

今年の夏、8月に南アルプス鳳凰三山で出逢った可憐なお花たちです。

砂礫と大岩の間にけなげに咲く姿に感動して何回もシャッターを押しました。

【特徴】ナデシコ科。南アルプス高山帯の主に花崗岩帯に多く見られる小型の高山植物です。

春に芽を出し、赤みを帯びた小さな葉を茂らせ、夏に5弁の赤桃色の花を咲かせます。

草丈は5～15cm、開花時期は7月～8月です。



砂礫の中で



大きな岩の下で佇むように



大きな岩の割目から強く可憐に



イワギキョウと仲良く共生

ススキ

和久井 君



今年の9月、尾瀬集中山行が雨で中止になりましたが、桧枝岐に出かけてみました。ところが、桧枝岐では雨に降られることもなく秋の気配を感じる散策が出来ました。

桧枝岐に向かうバスに揺られていると、道の両側にススキの原とコスモスがきれいでした。ススキなのかオギなのかははっきりわかりませんが、私はこの植物を見ると茅葺屋根だった実家を思い出し、郷愁を感じるのです。屋根の葺き替え作業が大変だった思い出があります。 桧枝岐村にて



ススキ

平地や山地の日当たりのよいところに生える多年草。秋の七草の一つ。高さ1～1.5m、茎の頂に長さ20～30cmの大きな花穂をつける。

別名のカヤはこの葉で屋根を葺いたことから刈屋根の意味という。

(主婦の友社持ち歩き図鑑身近な野草、雑草より)

ごよみ No.70

リンドウ(竜胆)とヤマラッキョウ(山辣韭)

吉田 幸

9月に入ると風が変わり、空が高くなり、街路樹の袂で彼岸花がニョキッと芽を伸ばし、彼岸入りに合わせて正直に咲き初めました。

それでは、山の様子は？徳島の友達から Facebook で剣山の「秋の花」が届きましたので紹介します。

リンドウ (竜胆)

秋花の代表

天候の良い時にだけ花を咲かせ、雨や曇り夜には花を閉じる性質があります。

かつては、水田周辺の草地等に、たくさん自生していたそうです。



リンドウの根っこは苦くてまるで『竜の胆』のようだと例えられ、そこから竜胆（リンドウ）と呼ばれるようになったそうです。



ヤマラッキョウ (山辣韭)

湿原に自生する山野草です。

秋になるとピンク色をした花を咲かせます。

他のラッキョウと比べ雄しべが長いのと湿地を好むのが特徴です。摘むとニラのようなにおいがします。

・秋の七草 ①萩 (ハギ) ・②薄 (アヲ) ・③桔梗 (キョウ) ・④撫子 (ナデシコ) ・⑤葛 (クズ)

⑥藤袴 (フジバカ) ・⑦女郎花 (オシロイ)

・秋のお彼岸に供えるのは、秋を代表する花の

「萩」にちなんで「萩餅」→「御萩餅」→「御萩 (おはぎ)」

・春のお彼岸に供えるのは、春を代表する花の

「牡丹 (ぼたん)」にちなんで「牡丹餅」→「ぼたんもち」→「ぼたもち」

ミヤマキリシマ

松尾 佳



九州各地の高山に自生するツツジの一種で少し小ぶりだが色はピンクで、時期になると群生し山全体がピンクになるとのこと。

九州出身の方からミヤマキリシマの話を伺い、いつかピンクに染まった山を見たいとずっと思っていたら、2014年にさんかくてんでミヤマキリシマの時期に九重連山に行く機会が訪れました。

北アルプスの高山植物はどちらかと言えば黄色または白色の花が多く可憐な感じで癒される～という感じですが、ミヤマキリシマは群生していて出会った瞬間ウワー凄いと叫び声を上げたくなる感じです。



今年は念願だった本場の霧島にミヤマキリシマを見に行ってきました。何年前の新燃岳の噴火の影響で群生は少なくなりましたが、それでも所々に群生は少なくなりましたが、それでも所々に群生するピンクの花に感動しました。



キレンゲショウマ(黄蓮華升麻)

吉田 幸

宮尾登美子さんの小説、徳島県剣山（1955m）を舞台にした『天涯の花』で紹介された『キレンゲショウマ』を兼ねてより一度見てみたいと思っていました。

♪=*^ - ^*=チャンス到来=*^ - ^*=♪

昨年（平成 28 年）8月に母校（愛媛県新居浜市立中萩中学校）の同期会があり、中学校時代の親友夫婦（徳島市在住）の案内で『キレンゲショウマ』に会いに行きました。

毎年『キレンゲショウマ』が咲く頃は、見物人が数珠なりとの事。少々時期外れで咲いているかどうか不安でしたが、十分楽しむ事が出来ました。

テキサスゲート（人は通れるが、鹿は通れない橋）を渡ると斜面に群生する『キレンゲショウマ』！！

大人の手のひらもあるような大きな葉っぱからスーっと伸びた軸から、黄色い花がパラッ・パラッと下向きに咲いていました。

「アラ！次期が遅くて、しばみかけているのかしら？」

「まさか、咲き初め??」

「これが咲いている形ヨ」(^▽^)/

「ラッパの形に咲くのが特徴ヨ」

半日陰に咲く黄色い花。

このキレンゲショウマが、美しい群生地そのまま保存される事を願いたい。



筒状の黄色い花を数輪斜め下向きに数輪つづける



斜面に群生するキレンゲショウマ



宮尾登美子さん自筆

『さわやかな月光の花は
凜として気高い』

«キレンゲショウマ»ユキノシタ科

紀伊半島、四国山地、九州山地などの限られた地域、

ブナ林の中や湿った石灰岩地

多年草、花弁は5弁 肉厚

7~8月 80~120cm

名前の由来はレンゲショウマ（蓮華升麻）に似た花という

事ですが、実際にはあまり似ていません。

岩蓮華(イワレンゲ)

吉田 幸



イワレンゲはこの岩に咲いていました



蓮華に似た新芽(直径5cm位)



11月初旬に花が咲く
(ネットより)

5月12日より北陸に旅行に行ってきました。この旅行中に『花暦』の題材が見つかると思いながら景色を楽しみました。

最終日、五箇山の集落を散歩していると、真っ白い花が斜面に広がって咲いていました。これだ!と思いきやカメラに収めました。

さて、名前は? 通りかかりの人に尋ねると「ニンジン草」との事。よく見ると葉っぱがニンジンの葉に似ていました。

「これでよし」と集落に戻りましたら、案内所に職員が居ましたので、「何か珍しい花はありません?」と尋ねましたら『イワレンゲ』を紹介してくれました。彼が言うには「イワレンゲは五箇山に生息しちょうど今頃、多肉植物のような葉が芽吹き、形が蓮(ハス)の花に似て、花より価値があり、この五箇山から移植しても栽培は難しい」と少々自負気味にスマホの写真を見せながら説明してくれました。

早速、彼が教えてくれた場所に行ってみました。大きな岩の苔からポツリポツリと蓮の花のような『イワレンゲ』を見つけました。深い雪に埋もれ、雪が解け、やっと新芽を出した葉っぱはふっくらとして赤ちゃんの指のようでした。

イワレンゲ»ベンケイソウ科

葉は多肉状態。岩の上に生える。わらぶき屋根の上に生えることもある。秋9~11月頃に花茎をよきと伸ばして開花



おまけになったニンジン草の白い花
咲く小道です

イワタバコ(岩煙草)

渡邊 美

昨年の夏、奥多摩の越沢の岩場の帰り道で出会いました。
湿った薄暗い岩肌の隙間にスポットライトを当てたようにたった一輪、その花は咲いていました。



同行者から『イワタバコ』と、教えてもらいました。

その後、高尾山に咲いていると聞き、訪ねて見ましたが、会うことは出来ませんでした。

葉っぱが煙草の葉に似ているのでこの名前になったそうです。



☆イワタバコ(岩煙草)☆

イワタバコ科の多年草。湿った岩壁に着生する。花は美しいので山草として栽培される。また、若葉が食用に出来ることから別名イワチシャともいう。

花ごよみ No.64

レンゲショウマ

安達 貴

レンゲショウマの群生地として有名な東京御岳山で8月に撮りました。

蕾はボンボリのようなかわいらしい。森の妖精と呼ばれ、一度みたら虜になる人も多いとか。開花するそのさまは、名前のごとく蓮に似て凜として高貴な感じがします。



下向きに咲くので、下から見上げるように捻じれた姿勢のカメラマンでいっぱいでした。

花が蓮に、葉がサラシナショウマ（晒菜升麻）に似ているので、レンゲショウマ（蓮華升麻）の名がつけられた。高さは80cm程度、丸い蕾をつける。赤みを帯びた光沢のある薄紫の上品で気品あふれる花が、様々な方向を向いて咲く。花の直径は4cmほど。ガクも花弁も共に花弁状に見える。本州（東北部～近畿）の太平洋岸の温帯域に分布、山地から深山のかけての湿気のある林下に生える。複数の地域で絶滅危惧種に指定されているとの事

Wikipedia より抜粋引用しました。

クワ[桑]

金子 貴

小学校では中学年で、蚕の飼育について学習するようです。金子家ではお兄ちゃんが夏休み前に小さな蚕を 5 匹持ち帰ってきました。小学校の庭には 1 本の桑の木があって、2 日に一度のペースでせつせと学校から葉を運び、蚕のためにエサやりをすることが日課になりました。その蚕ちゃんたちは繭を作り、その後蛾になって卵を産み、子孫が大繁栄。多数の蚕ちゃんのお世話は益々大変に。今年の夏は思いがけず昔の養蚕家の苦勞を体験することになってしまいました。私はいろいろと養蚕について学習し、シルク博士になりました。できた繭は、糸にするかどうか悩みましたが、自作のお正月飾りにつくりかえました。

桑の実



Wikipediaより

繭がたくさんできました



このような貴重な体験もあり、去年から桑の木がとても身近な存在になりました。桑の花はあまり目立たない白い花です。小学校の桑の実はこどもたちが休み時間に味見したりもするそうです。赤黒い実ですが甘くておいしい。山でもたまに見かけますよね。

(おしらせ)

さんかくてんの Web マガジン・ホームページ (<http://sankakuten2.web.fc2.com/>) では花ごよみの記事を掲載しています。綺麗な花々の写真をカラーでご覧ください。

花ごよみ No.62

もくれん

吉岡 綾

白木蓮は、モクレン属の1品種で、木蓮（紫木蓮）とは異なります。樹高10~15mほどに生長し、春になると新葉が出る前に、大型で厚みのある白い卵形の花を上向きにたくさん咲かせます。

紫木蓮に比べて開花時期が早く、2~3日ほど咲いた後に枯れてしまいます。花びらは肉厚で、満開になると強い香りを放つことが特徴です。

通常「木蓮」というと、紫色の花を咲かせる「紫木蓮（シモクレン）」のことを指し、白い花を咲かせる白木蓮とは区別されます。

ちなみに名前の由来は蓮の花に似ていることから木に咲く蓮（木蓮）の意味。



もくれんとこぶしの見分け方

「もくれん」は開花中葉をつけないが、「こぶし」は花の下に一枚だけ葉をつける。



エーデルワイス(和名:セイヨウウスユキソウ)

安達 貴

6年前のスイスのハイキングのツアーで撮った1枚です。

現在、自生のエーデルワイスは少なくなりハイキングコースでは滅多に見つけることは出来ず、残念ながらこの写真も、山麓のロープウェイ乗場の花壇に栽培されたものです。



サウンドオブミュージックの美しい歌声から可憐なイメージがあったのですが、思っていたより背丈があり、綿毛の部分も肉厚でなんだか逞しく存在していました。

花卉のように見える白い部分は、変形した葉なんだそうです。本当の花は中央の小さい黄色い部分でキク科に属しているので菊の中心部に似ています。

ヨーロッパのエーデルワイスに似たウスユキソウは、早池峰や礼文で見られるそうです。

(おまけ)

エーデルワイスは、ミュージカルで有名なハプスブルグ家 最後の皇妃エリザベートの髪飾りでも有名です。

ミヤマセンキュウ (せり科)

和久井 君



2016年8月29日 梅池自然園にて

いろいろなところで見かけますが、1992年に登った時の鳥海山では、「なんだか色気のない花」としか感じませんでした。他の花がきれいすぎたのでしょうか。

今回、梅池自然園でいやというほど咲いていたので、よく見てみると白くてごくごく小さな花の集団になっているのに気がきました。種類もいろいろあるようです。ちょうどこの時カメラが壊れてしまいました。新しいカメラを買ういい機会になり今度は花々を撮って歩きたいと思います。

この花は、高山植物がいろいろある中で私が最も好きになれない花でした。どうしてなのかということ、子供のころよく山に出かけて遊んでいたので、歩き回るのに邪魔な花だったからです。その花の名前がミヤマセンキュウと分かったのは今年梅池自然園に行って分かったことです。シラネセンキュウというのもあるようです。



ミヤマセンキュウ (和名 深山川芎)

せり科 ミヤマセンキュウ属の高山植物 亜高山帯から高山帯の草地に自生している。本州中部から北海道に分布している。葉は典型的なシダ状で、枝先の複散形花序に直径2ミリくらいの白色の花を多数つけます。背丈は50センチから1メートルくらい。

ネットで読むと以上のようなことが書かれていました。

大文字草(ダイモンジソウ)

吉田 幸

昨年9月13日の谷川岳日帰り山行の時でした。



ロープウェイ天神平駅から金子さんのお子さん、そしてお友達のお子さん達と賑やかに登っていましたが、熊穴沢避難小屋手前で『あっ、大文字草ヨ！』と金子さんの声。

園芸店ではよく見掛けている花ですが、自然の中で咲いているのを見るのは初めて。とても新鮮でした。

その日の谷川岳の天気は、曇り→少々晴れ→小雨→曇りと大文字草にとっては嬉しいお天気。

そのせいか、大文字草が生き生きと咲いているように見えました。

どなたかが「山の花は、その場所に行かないと出会えないから、せっかく山登りをしているのだから山の花の名前を覚えないうちがもったいない」って言っていました。なるほどその通り。

改めて山登りの楽しみを教えてくれた『大文字草』でした。

花言葉は『自由』『不調和』アンバランスな花卉だからです。

大文字草はユキノシタ科
5弁花が漢字の“大”の字に見えることから名づけられました。
乾燥に弱く、湿り気のある日陰を好むとの事。

あざみ・アザミ・薊

薦 由

アザミは、春から初秋にかけて山や野原、河川敷などいたるところで見かける身近かな花です。

私が、そんなどこにでも咲いているアザミに興味を持ったのは、10年以上前の8月末に千丈が岳に行ったときのこと。北沢峠への道路の路肩で見た大きな、今まで見たことのなかったフジアザミを初めて見たときからです。これはアザミ???

その後、注意して歩いていると、8月から9月ころ丹沢、道志山塊、南アルプス周辺で首を垂れて咲いているややグロテスクとも思われるフジアザミを見かけるようになりました。

国内では、約100種類くらいのアザミが存在し、アザミはそれらの総称で、国内で分布しているほとんどが日本の固有種とのこと。ノアザミのように北海道を除く全国に分布しているアザミがある一方、狭い地域のみ

の固有種も多く、新種発見が今でも多い花だそうです。フジアザミは富士山周辺に咲く地域限定固有種です。この夏、どこかの山で出会うアザミ、「なーんだ、アザミか」と見過ごさないでよく見てみてく

アザミについて

名:アザミ(薊)はキク科アザミ属の総称

原産地:北半球に広く分布。日本では100種以上ありほとんどが日本特産。フジアザミのように広域の固有種もあるが、ダイニチアザミ(白馬岳)、チヨウカイアザミなどの固有種も多い。大きさはいろいろフジアザミは最大。

色:赤紫、紫、赤、ピンク、白

開花期間:3月~10月 ノアザミは春、ノハラアザミ、フジアザミなどは秋。

その他:嫌われ者の棘がノルウェー軍から国を守ったとのことでスコットランドの標章と国花である。花言葉は「独立」「報復」「厳格」「触れないで」...

アザミの新芽、根主は山菜として山ゴボウなどといわれ食用になっている。



フジアザミ(以上写真他wikipediaより)



エゴノキ

今岡 朋

低山を歩くと、足元に白い小さな花が、敷き詰めたように、落ちているのにであいます。上の方に咲いているので見上げるようになります。エゴノキの白い花です。



20代の頃の職場は、東村山ありました。まだ、武蔵野の面影が残っていました。タンポポが一面に咲き、エゴノキが白い花をつけている中を、子供達が走りまわっていました。名前にそぐわない可憐な花を今でも思い出します。

エゴノキは、落葉小高木で、全国の雑木林に見られます。和名は、果実を口に入れると、喉や舌を刺激して、えぐいことに由来します。花の形は、5片に深く裂けていますが、大きくは開いていません。落花は、6枚に見えますが、花被片といって、ガクが花弁と同様に花弁状になっているそうです。



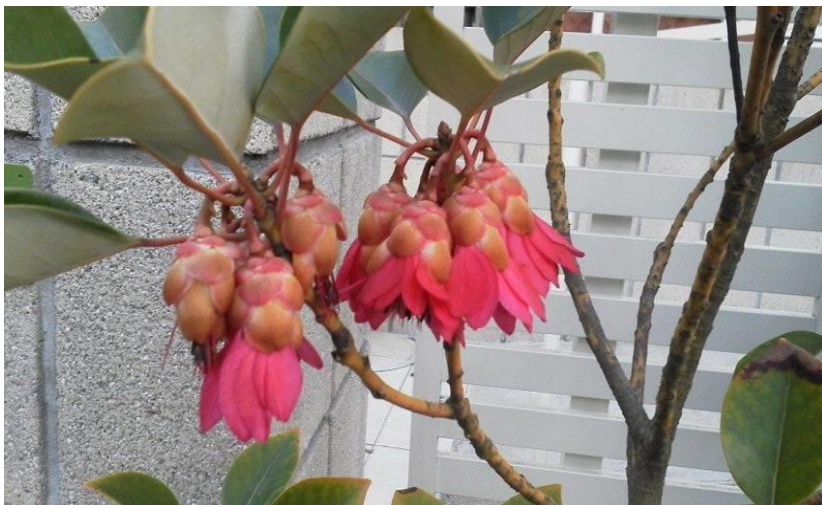
ロドレイア

中村敏



昨年、足を骨折し山に行きませんでした、ある時6月の花をたのまれました、珍しい花なんか何処へ行けばいいのかと・・・私の家のすぐそばにありました。綺麗なかわいい花が。

花名 ロドレイア
別名 シャクナゲモドキ
原産 東南アジア～中国南部



私の好きな花
ちんちょうげ

ヒメサユリ

深沢明



私が「山の会さんかくてん」に入会したのは故郷の山の守門岳にのぼりたかったからです。5歳で中国の満州から引き揚げて来て最初に見た山でした。その地は新潟県栃尾です。わずか数年しか過ごさなかったのに、この山を何時までも忘れることのできなかったのです。

東京で暮らすようになって40年近くなりなんとか登れないかと1997年に入会。何度もリクエストしましたが、実現したのは2002年6月15日でした。

栃堀登山口から歩き、ところどころにまだ雪が有り雪の解けた藪の中にこの花は凜と咲いていました。うれしいことに頂上まで続いていたのです。

花の立ち姿は花言葉の通り純潔そのものでした。当時花音痴でピークハントを目的に山を歩いていた私は花には目もくれなかったのに、アルバムの中で美しく咲いています。

その数年後、白山に行った時1本だけ咲いていて「大事に大事に」されているのを見ました。その時私は「守門で沢山見たぞ」と心の中で自慢したのです。

この花は現在、環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されているそうです。

守門岳にこの花は今でも咲いているのでしょうか。



ところが昨年2015年6月29日福島県会津田島郊外高清水自然公園で群生しているのに出会いました。広報さんかくてんNO.360の表紙になっています。(詳しいことは佐藤達夫さんの山行文を読んでください。)

そこで、この花を守る地元の人たちの努力、その花を見に来てほしいと願う人たちのことを知りました。感謝です。



さくら、桜、櫻、cherry blossoms

関山 聡

「花ごよみ」の原稿を書いてほしいとの依頼を受けて、さっそく伊豆の河津に行くことにしました。それは、「さくら」をテーマにした原稿を書きたいと思っていたのと、今を旬とする桜が河津桜だったからです。河津桜は何も河津に行かずとも、私の近所の林試公園にも咲いていますが何故か地元で観賞してみたいと強く思ったからでした。そして、折角のことだから天城山も縦走してこようと旧友に声をかけて、6名で行くことにしました。



地球が1公転する間には季節が移ろい、その間には数多くの花々が咲き誇るというのに、桜の花には特別な思いを感じます。桜には死生についての感慨を私たちに呼び起こす、不思議なものがあるようです。私たちはどんなに元気だと思っても、時には病氣もしますし、永遠に若い肉体を保つことはできません。

僕は、海や山、風や光、花や水といった大自然が持っている治癒力を薬と捉えて、体調が悪いときにそれを利用し、自分の体の中の自己治癒力を高めて、体調の回復に努めています。桜ふぶきの下をふらりと歩けば生き生きとしてくるのは、この治癒力によるものだと思う。又、山に登って自然を満喫したときなどに元気になれるのも、同様のことのように思います。

2月初旬からなかなか治らなかった風邪が、この花見山行でウソのように治ってしまいました。桜には多くの種類があり、それぞれに開花時期も異なり、気候も違うことから、沖縄から北海道まで長期間にわたって桜を楽しむことが出来ます。十月桜(10-11月、3-4月の年2回咲く)、寒桜(2月)、ソメイヨシノ(3月下旬-4月初旬)、関山/カザソ or 姓マ(4月中旬-5月初旬)というように。皆さんは、関山という名の桜を知っていますか。僕の大好きな八重咲きの桜です。



【図鑑によると】

関山は、明治初年東京荒川堤の桜として全国的に有名になった代表的な里桜です。美しい花つきのよい桜で、並木や公園樹として広く植栽され、海外でも好んで植えられています。大阪造幣局では、この関山が最も木の本数が多い。

同姓のさくら楽しむ古希の年

関山 聡

キバナシャクナゲ

高山帯のハイマツ林内や林縁などに生える
ツツジ科ツツジ属の常緑木

日比野 晶

トムラウシ山の花々



キバナシャクナゲ



エゾコザクラ

2005年6月19日 朝日旅行会のツアーでトムラウシ山に登った時に遭遇し花です。

2日目の期 午前3時半に東大雪荘を出発。すでに外は明るかった。約20分で登山口に到着

4時に登山開始。新緑のダケカンパホは光を浴びて輝くようえた。

5時半にカムイ天上に若く。開けた雪の大地でトムラウシが眼前にくつきりと眺められた。

6時に林の中で朝食のおにぎりを食べた。その後、前トム平までの2時間半はほとんど雪渓上の歩行となったが 時々ガスがかかり 微風で暑くもなく 寒くもない絶好の登山日和である。コマドリ沢の登りではコマドリの鳴き声を聞きながら

8時半に前トム平に着く。そこには「キバナシャクナゲ」の大群落があり所々にミヤマキンバイやエツツガザクラが咲いていた 現地ガイドが丁寧に紹介してくれた…… (後略)

——当時の山行記より——

次の二つの小冊子が電子書籍に！

- 「思い出の山旅」 —日本百名山登頂記—
- 「わがマラソン人生」 —走りつづけて40年—

(閲覧はすべて無料) 日比野 晶—

BOOKSTORE

「個性屋」

<http://koseiya.wook.jp/>

チョウジギク(丁子菊)

キク科ウサギギク属

福井 真



2015年9月21日に、拇海新道を歩くために向かっていた朝日岳の吹上のコル手前の水場付近に咲いていました。見た瞬間「何、この花、見た事ない!」と思いました。今まで見てきた北アルプスの可憐な花達と比べると異彩を放っています。葉は普通ですが、花柄は長く白くふわふわした毛が密生していて、一度見たら忘れられない姿をしています。



別名のマギク、ウサギギクとは全然似ていません。花の名前が分らず困っていましたが、高橋さんに教えて頂いて助かりました。福島県ではほとんど見られない為、希少種だそうです。

チョウジギク(丁子菊)は8~10月に咲くキク科の花。低山から亜高山にかけての湿った草地に生息する多年草。花は筒状花のみからなり、花径1センチくらいで黄色い。総苞(花序全体を包む葉の変形したもの)は筒状である。